

長期視点でリスク対応を

スペシャルディスカッション

ウィズ・コロナ / アフター・コロナ時代の ESG 投資と TCFD 開示の意義

TCFD 開示で進むアフター・コロナのイノベーション



レイノルズ氏



フロスト氏



大関氏



マクレーン氏



青木氏



水野氏

スペシャルディスカッションでは企業、投資家それぞれ立場から、現在のTCFD開示状況や課題、将来に向けての課題について、ポジティブな意見交換が行われた。

まず、前回のサミットからの進展について各パネリストから報告が行われた。

レイノルズ氏は「環境問題の解決に向けて建設的に取り組む『Climate Action 100+』にはアセットオーナーと運用会社など500以上の機関が参加している。これは投資家のエンゲージメントの中でも最大級であり、投資家の投資判断に資するTCFDの重要性は格段に増している」と述べた。

大関氏は「日本はTCFD

のサポーター数が世界最大であり、情報開示も拡大している。企業はシナリオ分析を行う上で開示しており、これに対する投資家の注目度も高い。ESG格付けと株価に正の相関があることが、このパンデミックの期間中さらに示された。レイノルズ氏は「この1年で気候がリスクのトップ3に入った。我々は来年から気候を全ての投資判断に盛り込んでいく。TCFD開示を自発的なものではなく義務化していきたい」と述べ、企業に対して「バリューチェーンを通じて、2050年までにネットゼロのターゲットを設定してほしい」と要望した。

企業側からは、青木氏が「資本

SD持続可能な開発のための世界経済人会議とパートナーを組み、投資家と企業の声を反映した取り組みを進めたい。ギャップを一緒に埋めていきたい。その際、新たな基準や枠組みを作るのではなく、今あるものの調和をさらに進め、ギャップを埋めることが重要だ」とした。

また大関氏は「シナリオ分析がTCFDの重要な点だ。財務リスクのインパクトが懸念される企業だけに使うのではなく、気候変動から便益を得る機会のある企業にもシナリオ分析を積極的に使ってもらいたい。長期的なベネフィットや機会も話してほしい」と要望。TCFD開示は、統合報告を補完し強化するもの。統合報告は既に普及しており、TCFD提言でさらに開示が拡大する機会があるだろう」と指摘。フロスト氏も「他の基準と比べてTCFDが重要か。投資家が求めるものは大同小異で、テンプレートがあるとうまく活用できる。カルパスのポートフォリオにはプライベートエクイティのTCFD枠組みがある。そのデータをもっと最終的な投資判断に」と同意した。

新型コロナで先が見えない中、企業も投資家も長期ビジョンで課題に向き合うことが重要だという点で意見が一致した。

青木氏は「投資家の立場も考えて、双方が協力して環境とソリューションを共につくることを重視している。まずバリューチェーンの考え方を変えなければならぬ。伝統的なバリューチェーンではなく、業界を超え企業を超えてオープンイノベーションを追求する必要がある。それが今後の気候変動問題への対応につながる。投資家にもそうした素晴らしいアイデアを見つけ、育てていきたい」と呼びかけた。

マクレーン氏は「当社はカスターアプローチを行っている。

課題はESGスタンダードの確立

討議では、TCFDの課題についても提起された。

マクレーン氏は「ESG基準の共通化は難しい。まず全てのESGの要素を網羅する基準のための基準が必要だ。これが、企業が社会の期待に応え、投資家が明確さを求める中で共通言語となる。そのような基準にはTCFD提言の長所を生かすべきだ。ESGリポーティングは一夜にして成らず。共通言語と同じ測

定基準を用い、透明性を高めることで、進歩が加速する」と指摘した。

水野氏も「投資家の要望に応じて企業はTCFD開示を進めてきた。しかし開示された結果に対し、投資家は必ずしもポジティブではないことにフラストレーションをためている。PRI責任投資原則は基準策定に関わっているが、標準化に向けた方向性をどう考えるか、TCFDは最も有望な枠組みになるか」と投資家側へ水を向けた。

これに対し、レイノルズ氏は「利用可能な最善の枠組みだと思っからこそPRI報告にも盛り込んでいる。様々なESGデータの基準があるが、全体的に投資家からすればまだ足りない点、ギャップがある。それは、受け取った情報が本当に投資の意思決定に役立つ情報かどうかである」と述べた上で「今後はWBC

一致した。

青木氏は「投資家の立場も考えて、双方が協力して環境とソリューションを共につくることを重視している。まずバリューチェーンの考え方を変えなければならぬ。伝統的なバリューチェーンではなく、業界を超え企業を超えてオープンイノベーションを追求する必要がある。それが今後の気候変動問題への対応につながる。投資家にもそうした素晴らしいアイデアを見つけ、育てていきたい」と呼びかけた。

マクレーン氏は「当社はカスターアプローチを行っている。

- ◇パネリスト
- PRI (責任投資原則) CEO **Fiona Reynolds** (フィオナ・レイノルズ) 氏
 - CalPERS CEO **Marcie Frost** (マーシー・フロスト) 氏
 - ニッセイアセットマネジメント 社長 **大関 洋氏**
 - Royal Dutch Shell Executive Vice President, Taxation and Controller **Alan McLean** (アラン・マクレーン) 氏
 - 資生堂 常務チーフソーシャルバリュークリエイションオフィサー **青木 淳氏**
 - ◇モデレーター
 - 経済産業省 参与 TCFD サミットアンバサダー **水野 弘道氏**

パネルディスカッション 1

業種別のマテリアリティを踏まえた評価の重要性

気候変動が企業に及ぼす影響について情報開示の要請が高まる中、パネル1では気候変動リスクに対するマテリアリティ評価の重要性が議論された。

最初にパネリストが取り組んだ状況を報告した。ワイルド氏は「BHPでは気候変動は取締役会の全社リスク管理と戦略検討に直結している。様々なシナリオに対して、戦略を検証してその強じん性を確認し、投資判断へと結び付けている」と説明。山内氏は「住友化学では気候変動について、リスク対応と機会獲得の両面から取り組んでいる」とし、リスク対応では温暖化ガスの排出削減、機会獲得では「スミカ・サステナブル・ソリューション(S&S)」による認定製品・技術を通じた取り組みを話した。

非財務情報開示の標準化を進めるNPOサステナビリティ会計基準審議会(SASB)のバーナム氏は「SASBは気候関連情報報告をカバーしており、『各業種に特化した気候リスクのトピックスや指標を特定し、開示を促している。日本でもSASBを

- ◇パネリスト
- Sustainability Accounting Standards Board (SASB) Director Of Research - Projects **David W. Parham** (デイビッド・パーハム) 氏
 - マニユライフ・インベストメント・マネジメント クレジット調査部 **押田 俊輔氏**
 - BHP Vice President, Sustainability & Climate Change **Fiona Wild** (フィオナ・ワイルド) 氏
 - 住友化学 コーポレートコミュニケーション部長 **山内 利博氏**
 - ◇モデレーター
 - 東京海上日動火災保険 フェロー 経営企画部 専門部長 国際機関対応 **長村 政明氏**

共通理解に立ったエンゲージメント必要

はTCFD提言に沿って移行リスクと物理リスクに分けて考えている」と話し、山内氏は「住友化学では社長が委員長を務めるサステナビリティ推進委員会でのリスク・機会の特定について議論し、取締役会へ報

共通のマテリアリティを示すことがSASBの強み。気候変動リスクは業種が異なるが、影響も異なる。同業種間の比較は重要」と賛同。「7割以上の投資家が企業には標準化された業種固有の指標を使っ

最後に長村氏が「投資家は長期的な視点を持ってセクターごとのマテリアリティを投資の意思決定に入れていくことが重要。一方企業側は潜在的な気候リスク・機会を把握し、経営レベルで議論するメカニズムを構築することが必要だ。こうした取り組みの上で、投資家と企業の双方で共通理解に立ったエンゲージメントを続けていくことが大切」と議論をまとめ、パネルを締めくくった。



パーハム氏



山内氏



押田氏



長村氏



ワイルド氏

TCFD 提言とは

「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」は、20カ国・地域(G20)の要請を受け、金融安定理事会が気候関連の情報開示および金融機関の対応を検討するために設立した。2017年6月に最終報告書を公表し、企業等に対して気候変動リスクや事業機会などについて、他の財務情報と同様、投資家などに開示するよう提言した。

TCFD 提言では①ガバナンス：どのような体制で検討し、それを企業経営に反映しているか②戦略：短期・中期・長期にわたり、企業経営にどのように影響を与えるか、またそれについてどう考えるか③リスク管理：気候変動リスクについて、どのように特定、評価し、またそれを低減しようとしているか④指標と目標：リスクと機会の評価について、どのような指標を用いて判断し、目標への進捗度を評価しているか——の開示を推奨している。